

KEY
PERSON

「共に仕事をする従業員は

私にとって大切な家族です」



(有)日吉設計代表取締役社長

石村 忠美

仁

・義・礼・智・忠・信・孝・悌

「大企業では従業員をツールや歯車として見るがありますが、私はそんなことを思ったこともない。従業員は共に働く仲間、大切な家族です」と石村社長。経営者である以上、私情を挟まずドライな姿勢に徹すべきという見方にも一理ある。しかし、どうしてもそうはできないと社長は語る。リーマンショックの煽りを受けて苦境に立たされた時も、リストラは一切考えず、「一度人を雇ったら、最後まで責任を持って」との先代の教えを遵守したそうだ。将来の夢は、たくさんの技術者を抱える機械設計の大手企業をつくること。そして人数が増えても「従業員は家族」との思いが変わることはない、真っ直ぐな構えを示してくれた。

(対談記事は34～35頁に掲載)

心をひとつに挑戦を続ける 機械設計のエキスパート集団



CADによる二次元・三次元設計をベースに、工作機械、産業機械、半導体関係機械の図面制作・設計を手掛ける『日吉設計』。1977年の創業以来、37年間にわたって設計に携わり、自動車業界をはじめとする様々な分野の製造業を支えてきた。今日は、同社を女優の大西結花さんが訪問した。



大西 結花

(女優)

設計士である父の背中を追い 早くから後継を心に決めて歩む

大西 『日吉設計』さんは、先代である石村社長のお父様が創業されたと伺っています。

石村 はい。父が1977年に創業しました。私は父の背中を見て育ち、早くから後継を継ぐ決意を固めていました。地元の高校を卒業して、東京の専門学校で製図を勉強。それからこちらに戻り、他所に勤めることなくすぐに当社に入りました。

大西 先代の姿に魅力を感じておられたのですね。その中でも、何か大きなきっかけが？

石村 私は車が大好きで、幼少期から

「天国に行ったら再会したい」という石村社長の言葉からは、先代であるお父様への愛が如実に伝わってきました。今はその愛を、共に働く従業員さんに注いでおられる社長。苦境にも屈することなく、皆さんで力を合わせて前向きに歩いてこられたからこそ、現在があるのでしょうか！

よく車の絵を描いていたのです。小学校4年生の時に、設計士だった父が、目の前で車をさらさらと立体的に描いてくれたのを見て、とても感動しましたね。コツを教えてもらってから、私もそれらしく描けるようになり、得意になったものです。自分にも設計ができるんじゃないかと。単純ですが、あの出来事がこの道を志すことになった大きなきっかけです。

大西 入社されてからは、ずっと先代と一緒に仕事をされて？

石村 ええ。20歳で入社して、父が他界する4年前まで一緒に仕事をしていました。今から10年ほど前、私が30歳の時に、父も自分の病気に気付いていたのか突然私に専務をやれと言ってきまして。実質的には社長みたいなものでしたが、それ以前からほとんど経営者のように動いていたので、慌てることはありませんでした。

従業員を守ること—— 携えるは経営者としての使命

大西 現在、手掛けられている業務内

有限会社 日吉設計

富山県砺波市千代 63-2

TEL 0763-33-1273 FAX 0763-33-2819

URL : <http://www.hiyoshi-sk.jp/>

代表取締役社長

石村 忠美

高校卒業後、東京の専門学校に進み、製図の基礎を学ぶ。その後、地元・富山に戻り父親が手掛ける『日吉設計』に入社。30歳で専務に就任して、経営の舵を取る。2010年に他界した先代に代わり、二代目として社長職に就任する。



先

代の教えを胸に歩む

今から4年前、64歳の若さで他界した先代。石村社長が30歳になった時に専務として社の舵を取ることを命じたそうで、それからは信頼して口を出さなくなったとか。「父のころは、ドラフターと呼ばれる製図台を使って手描きで設計図を仕上げていた時代。それがコンピュータに変わりはじめ、『もうお前たちの時代だから』と温かい目で見守ってくれていました」と社長。どんどんと新しい設備・技術を取り入れ、従業員と共に道を切り拓いてきた。厳しい時代でも前向きに歩んでこられたのは、先代の応援があったからに違いない。

先代から、経営者として人生を歩んでいく上で大切にするべきことを色々と教わったという社長。「30代はとにかく突っ走れと言われてました。40代は同世代が部課長クラスになるから、その付き合いで回せる。そして50代は運次第。そのタイミングで代替わりをしたり、流れに乗って、蓄えた力を上手く使ったりして歩んでいくようにと教わりました」——社長は現在39歳。「父と一緒に走ってきた数年間が一番貴重な時期だった」と振り返る。今は一人でつないでいるバトンだが、「息子と一緒に突っ走れる時が来れば」と楽しみに語る社長の表情が印象的だった。



容について教えて下さい。

石村 当社では、創業当初から工作機械や専用機の設計を主体として業務を展開してきました。最近ではマシニングセンタ、NC旋盤など汎用機の設計が増加しており、産業機械、半導体関係機械と、様々なものを二次元・三次元CADによって設計しています。

大西 先代から教わられたことの中で、特に心に残っていることは何でしょう。

石村 従業員に対する思いです。父は人を雇う以上、責任を持ってその人を守らなければいけないと教えてくれました。どんなに厳しい状況になっても、「リストラ」という選択は絶対がない。「どんな人であっても、その人を雇うことで世の中に貢献しているのだ」と。ですから、窮地に立たされた時も、従業員を守るべ

く一生懸命に歩んできました。

大西 厳しい時期もおありだったと？

石村 父が他界した時、ちょうどドリーマンショックでどん底に突き落とされた感じでした。取引先様はどれも予算を減らす方向となり、当社の売上げも10あったものが0になるなど……。同業他社も週休3~4日、中には5日の業者まで見られる始末でしたが、私は仕事がなくともそれまで通り休まずに営業に努めました。周りからは「仕事がないのに」と言われましたが、休んでしまうと電話を取ることでもできませんから、正直、休むのが怖かったということもあります。すると、他所が営業していないからと様々なご依頼が舞い込んできて、新しい仕事にも携わることができたのです。

大西 苦境にあっても前向きに取り組んでこられたことが、実を結んだのですね。

石村 お陰様で。あの時期を乗り越えることができたから、今後同じようなことがあっても対処できる自信ができましたね。専務に就任した当時、ほとんどの従業員が私より年上で、私の考え方や売上げ目標について理解してもらうのに苦労したこともありました。けれども徐々に

皆さんついてきてくれるようになり、人員も増やしていくことができたのです。苦しい時期も、皆で心一つにして踏ん張ることができたので、団結力が高まったと思います。近年は売上げ、利益共に順調に推移でき、従業員に感謝するばかりです。

大西 皆さんの団結力が、今日につながっている一つの要因なのでしょう。

石村 また設備面や技術面でも、新しいものをどんどん取り入れてきたことが良かったのだと思います。売上の90%は真正面で戦い、10%はニッチな部分を狙って新しいものにトライする。そうすれば、ものづくりがもっと楽しいものになりますからね。利益に左右されず、色々なことに興味を持って意欲的に取り組んでいきたい思いです。

大西 これからが益々楽しみですな。

石村 私共のような設計の分野には、技術者を多く抱えた大企業が少ないのです。だから、機械設計の大企業をつくるのが私の夢。そしていかなる時も従業員を大切にすべく、福利厚生に力を注いで安心して働ける会社を目指します。

(2014年4月取材)